

秋にそなえたものである。

教師はその園や地域の特異性を生かして、
適当なカリキュラムをつくるべきといっている。

保 育 の 友

児童憲章や児童福祉法が何年も前に制定されていながら、いまだに救われない多くの子どもたちがいるのはどうしてだろう。表面上はなやかにみえる国際都市のかけに、ほうり出されている子どもたち、また貧しい農漁村の恵まれない子どもたちを、いったいどうしたらよいのだろう。本号は「地域の子どもをみつめる」ことを特集にして、明暗とりどりの実状を紹介している。あるときは政治の貧困を憤り、役所の形式主義や施設の不備を嘆く。しかし、たよりない政治ならば、自らの力で少しでも解決しようとしなければ、いつまでたつてもだめである。その意味で、岩手県福原保育園の「部落の人々の総力でつくっ

た保育所」は明るい話題を提供してくれる。

働けど働けど、施設が与えられなかった部落民の力と熱意の結晶は、子どもたちの事故を追放し、台所の床に腰をひもでくくられていた幼児を解放したのであった。ここでも他園と共通した経費の悩みはある。けれども、幸福そうなお子どもたちの元気な姿が思い浮かべられて楽しい。

「テレビをどうみせたらよいか」（大阪市育徳園保育所の共同研究——視聴覚教育の調査から）は、すでに大阪保育事業研究会で発表されたものであるが、参考になる。このなかで筆者は「調査そのものの結果よりも、保母として、テレビを通してより深く子どもの姿を知りえたことは有益だった」と感想を述べている。私たちは子どもをよく知り、その気持になって保育することが大切である。しかも、いたずらに子どもの興味だけに流されることなく、つねに、めんみつで、温かな教育的配慮をしてあげたいものである。

幼児の教育 第五十六巻 第十一号

◎ 定価 五十円

昭和三十二年十月二十五日印刷

昭和三十二年十一月 一 日発行

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 守 真

発行者

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村町五番地

印刷所 凸版印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町二ノ五

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番

◎本誌に購読についてのご注文は発売所フレイベル館にお願いいたします。